



藤原 孟 議員  
(副議長)

**問**

幕別生きもの調査報告書は開拓期からの動植物を調査したもので、方法は全道的にみて新しい試みと言えるし、意義深い資料である。また、今年、合併10周年目に町のシンボルが制定された。そこで町長に伺う。

(1)シバザクラ、カシワ、オオハクチョウの歴史を振り返りつつ、まちづくりでの活用と今後の取組について。

(2)幕別生きもの調査の次なる計画は。

**町長** (1)昭和60年に「町の花」には、「シバザクラ」と「スズラン」、「町の木」には、「カシワ」、「町の鳥」には、「オオハクチョウ」を制定し、昭和61年の開基90年の式典で発表している。

今回、「町の花」に制定した「シバザクラ」は、その数が減りつつあるため、公共施設への植栽を進めるとともに、協働のまちづくり支援事業に苗の購入等の経費の追加を考えており、早ければ5月か

**問** 「幕別生きもの調査」を実施した歴史を踏まえ、新たに制定された町のシンボルの活用は

**答** 公共施設にシバザクラの植栽を進めるなど普及に努める

ら6月頃には、公園や近隣センターにきれいな花を咲かせることができるものと期待している。

「町の花」、「町の木」、「町の鳥」は、町のシンボルとしてホームページや広報紙などを通じ周知を図るとともに、各種印刷物に使用するなど町民に長く親しまれるものとなるよう普及に努めたい。

**教育長** (2)現在のところ、次なる調査の予定はないが、町民が本町の自然に愛着を持ち、守っていくことは非常に大切であり、次の節目の年や(仮称)幕別町郷土文化資料館」の建設などを機に実施の



幕別生きもの調査報告書 (右)  
ふるさとの花・樹 (左)

可能性や手法などについて検討していきたい。

**問** 味の景勝地構想を持つべき

**答** 観光物産協会等と連携しながら、町が持つ観光資源を発信していく

**問**

食と農を育んでいる気候、風土、歴史等が、体験型や滞在型観光の資源と一体的に景勝地を形成することで成立していた今までの集客力の小さい観光から脱してみるべきと考える。

国内外から時間とお金をかけて来てもらうにはストーリー性のある何かが必要ではないか。そこで対応策として地域観光を一体的に扱う組織「DMO(※1)」を立ち上げ、「味の景勝地(※2)」構想を検討することや地域観光の戦略を立てるかじ取りを担う場を設立させるべきと考え伺う。

**町長** 本町が持つ農業を核としたさまざまな観光資源を、本町の

「味の景勝地」として、町の観光物産協会と連携を図りながら、「(仮称)食と農の景勝地・十勝協議会」や「十勝アウトドアブランドディング事業」などの広域的な取組を通じて幅広く発信し、交流人口の増加につなげ、本町の観光振興に取り組んでいきたい。

**再質問** これからの観光は「地方へ行こう型」から「おいでよ型」になり地域主導になる。多様な関係者と協同しながら観光戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するために幕別町から組織機能を備えた法人を創設すべき。

**答** 広域の中で一つの十勝地域としてやるのが大きな力、発信力になると考えている。

※1「DMO」とは 観光地域づくりのかじ取り役として、関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりの戦略を策定・実施するための調整機能を備えた法人を指すもの。

※2「味の景勝地」とは 良質な食や食の生産・加工等に関連する景観などと、これらを守る人の各要素が備わった地域を「味の景勝地」として認証し、これらの地域資源を一体的・複合的に活用する取組により、地域全体のイメージアップを図り、地域産品の付加価値の向上や国内外からの観光客の増加により、地域の活性化につなげる取組。